

(資料1)

大谷家住宅主屋、土蔵、米蔵、渡廊下（おおたにけじゅうたくしゅおく、どぞう、こめぐら、わたりろうか）

員数：4棟

所在地：愛知県豊川市内

所有者：個人

1 登録理由

大谷家住宅主屋

中央に式台玄関を構えて中廊下を設けた、格調の高い農家の造りである。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

土蔵

下見板張の腰壁や正面の海鼠壁なまこかべに下屋を付けるなど、敷地後方の景観形成に寄与している。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

米蔵

鉄筋コンクリート造モルタル仕上げ2階建、陸屋根が特徴的である。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

渡廊下

主屋と土蔵を結ぶ木造切妻造で、敷地の景観を構成する付属施設である。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

2 概要

大谷家住宅主屋

木造2階建一部地下1階、瓦葺、建築面積 249 m² 建設年代 大正5年(1916) / 平成6年(1994)・平成18年(2006)改修

土蔵

土蔵造2階建、瓦葺、建築面積 22 m² 建設年代 大正5年(1916)頃

米蔵

鉄筋コンクリート造2階建、建築面積 23 m² 建設年代 昭和3年(1928)頃

渡廊下

木造平屋建、銅板葺、建築面積 2.5 m² 建設年代 大正5年(1916)頃 / 平成6年(1994)改修

大谷家住宅は愛知県の東三河にある標高789mの本宮山の麓に位置する。大谷家に現存する最も古い位牌は寛文10年(1670)と記されており、大谷家の祖先は江戸時代前期からこの地に住んでいたことになる。大谷家は、江戸時代に足山田村の庄屋を務めた家として繁栄した。

敷地は南西側と北西側で道路に面する角地である。主屋、渡廊下、土蔵は、大正天皇の御即位記念として大正5年(1916)1月9日に建設された。米蔵の建築年代についても主屋と同じ大正5年

と伝えられてきたが、資産税の課税評価上の建築年は、昭和3年（1928）とされている。

主屋は敷地の形状に合わせ、南西に面して建つ。木造2階建、寄棟造で棧瓦葺、外壁は土壁漆喰仕上げと板張である。農家の造りであるが、家族用の玄関とは別に、中央部に玄関の土間と床の段差が大きい場合に踏み板が付く式台玄関が設けられており、格調の高い家である。

式台玄関から北に座敷や仏間など二列各二室、南に居室、台所等を配し、各室へは中廊下で通ずる。大正初期の地方の農家で中廊下型の構成は珍しく貴重である。

また、居室部からつながるコンクリート造の地下室は、かつて養蚕用の桑の葉を置いていた。

土蔵は敷地の北隅に位置し、主屋の北側から渡廊下で接続されている。土蔵造2階建てで桁行二間半、梁間二間、外壁は腰壁を下見板張とし、正面のみ海鼠壁^{なまこかべ}で下屋を付ける。窓には、鉄の棒による格子が設置され、窓の外部には戸当たりがあり、意匠は蝶のデザインで、土蔵の外観の特徴となっている。

米蔵は敷地の南面に位置する。鉄筋コンクリート造モルタル仕上げ2階建、陸屋根である。1階と2階に各々窓が付き、階段室上部にアーチを基本にした曲面天井であるヴォールト天井をあしらい、防火に優れている。

渡廊下は主屋と土蔵を接続する木造平屋建、切妻造、銅板葺、外壁は土壁漆喰仕上げで、腰部は下見板張の渡廊下である。構造上、主屋と土蔵とは独立している。桁行二間、梁間半間で床板は厚く、主屋に劣らず格調の高い渡廊下となっている。

大谷家住宅は、大正初期の農家の住宅としては先進的な中廊下型の住宅で、農家の生活の近代化を示す貴重な存在である。堅牢なつくりで狂いが無く、当時のこの地方の大工の技術の水準を伝えている。



大谷家住宅主屋 正面外観
(豊川市教育委員会提供)



大谷家住宅土蔵 正面外観
(豊川市教育委員会提供)



大谷家住宅米蔵 正面外観
(豊川市教育委員会提供)



大谷家住宅渡廊下 西側外観
(豊川市教育委員会提供)